

## 中干し編

### 1 生育概況

本年の田植え作業は4月29日に始期を迎え、平年並みの5月6日に盛期を迎えました。風の強い日もあり、すでに田植えが終わった水田では一部、植え傷みが見受けられましたが、大半のほ場では順調に苗は活着し、新葉の展開も見られ始めました。

向こう1か月の天候の見通しでは気温は平年並みですが、日照時間は平年並みから少ないと予測されているので（5月17日新潟地方気象台）、天気の良い日は1~2cmの浅水管理とし、早期の分けつ確保に努めてください（ただし、強風や極端な低温が想定される場合は、一時的に3~5cmの深水管理とする）。

今後は、下記に基づき、①「適期中干し開始」と、②「水田周辺の除草」に努めてください。

特に、昨年のような異常気象（分けつ期の低温や登熟期の低日照など）に対応できる「強いイネづくり」のためには、今回の管理（早期の分けつ確保、中干しおよび中間追肥）がポイントとなります。

### 【今回のポイント その①】

## 《田植え後1か月经過したら、中干し開始で未熟粒の発生抑制！！》

『中干し』は米の品質や収量を左右する**最も重要な管理作業**です。

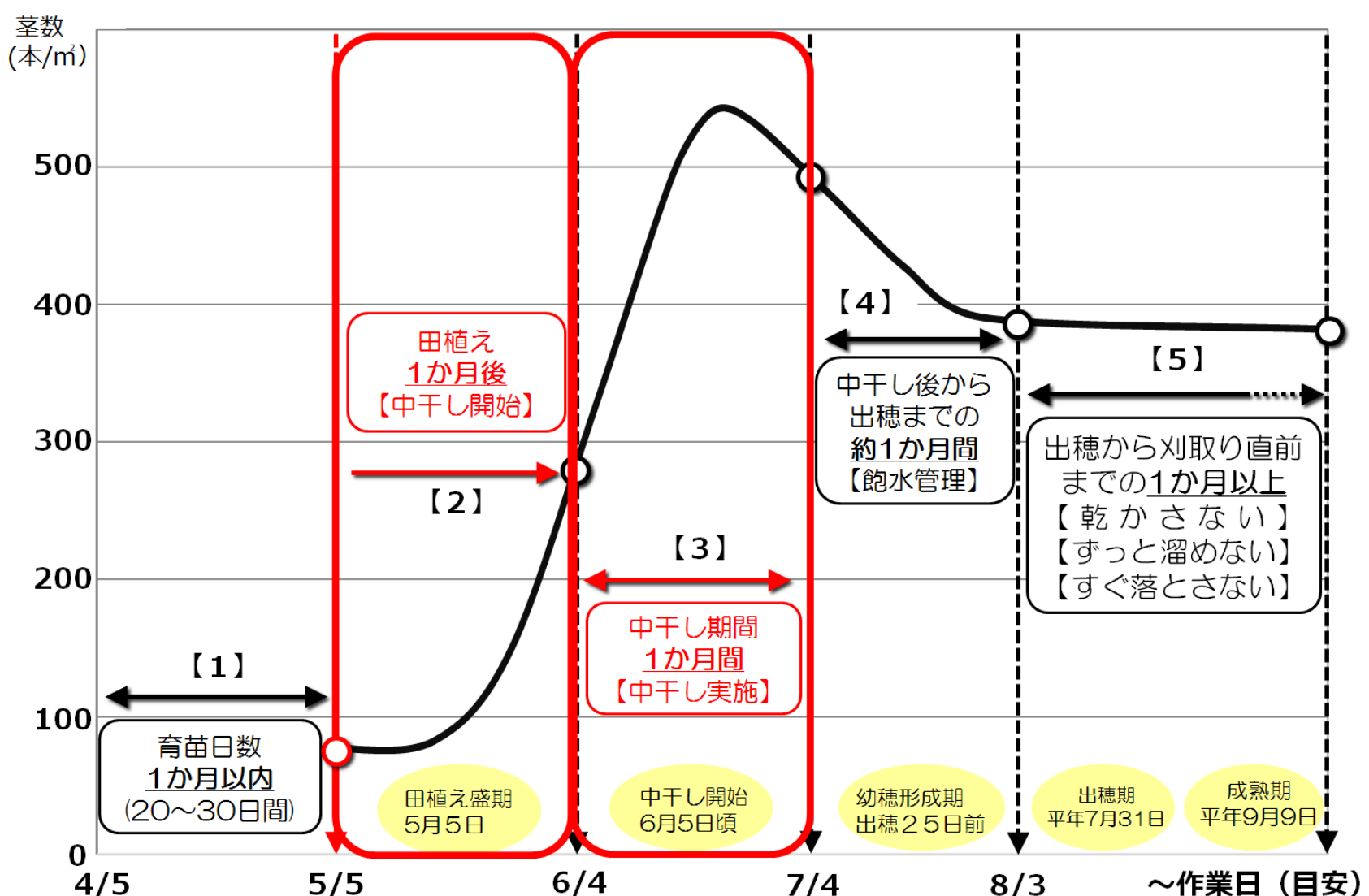
中干しの開始が遅れたり、実施をしないと、未熟粒の原因となる「弱小分けつ」や穂にならない「無効分けつ」を増加させます。また、登熟期間の養水分の吸収に必要な根の発達も不十分となり、結果的に未熟粒やくず米の発生を助長し、品質・収量の低下を招きます。

『中干し』の重要性を再認識し、能登産米のさらなる品質向上を目指しましょう！！



### 5つの1か月対策のポイント

- 【1】育苗日数は、1か月以内（20~30日間）
- 【2】中干し開始は、田植え1か月後
- 【3】中干し期間は、1か月間（コシヒカリ）
- 【4】中干し後から出穂までは、約1か月間（コシヒカリ）の飽水管理
- 【5】出穂から刈り取り直前までの1か月以上、  
①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない



## 中干しの効果

- ・無駄な分けつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ・秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。
- ・過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。
- ・田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。



乳白粒（未熟粒）やくず米の発生減少



白未熟粒（乳白粒）

## 2 当面の管理

### (1) 中干し開始までの水管理

#### ① 浅水管理（水深1～2cm）で分けつの発生を促進

苗が活着してからは、早期に有効茎（充実した穂となる茎）を確保するため、浅水管理（水深1～2cm）で水温・地温を高めましょう。 ※ 深水（水深3～5cm）は分けつの発生を妨げます。

#### ② 晴天時には中干し前から「軽い田干し」を行い、中干しの開始に備える

軽い田干しとは土の表面が乾かない程度に通排水することで、特に有害ガス（わき）が多く溜まっているほ場では積極的に実施してください。用水の利用が限られる場合は、用水を利用できる前日に干すなど、計画的に行ってください。

必ず実施  
してね!



### (2) 中干し、溝切りの実施

田植え時期や初期の水管理により、分けつの発生に差が生じます。そのため、ほ場ごとに中干し開始適期を確実に把握し、遅れないように必ず実施してください。

#### ① 中干し開始時期の目安

品 種	開 始 時 期		終 了 時 期	開 始 時 期 判 断 の 注 意 点
	1株あたり茎数	平 年		
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/10頃	①田植え後1か月、または、②左記の茎数に達した時期のいずれか早い方にあわせて実施し、額縁や滞水する箇所には溝切りを実施してください
早生品種	16本	6/7頃	6/30頃	
(根 拠)	目標穂数[ <small>コシ21本 早生24本</small> ]の70%時点		幼穂形成期	

#### ② 中干しの程度

ほ 場 条 件	程 度 と 方 法	開 始 時 期 と 継 続 期 間 (平年の目安)	留 意 点
一般田	田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度	※前記のとおり	葉色が濃い場合や分けつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続してください。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め（大きな亀裂を入れない程度）	一般田よりやや早めに開始し、やや遅めに終了する	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

#### ③ 溝切り作業

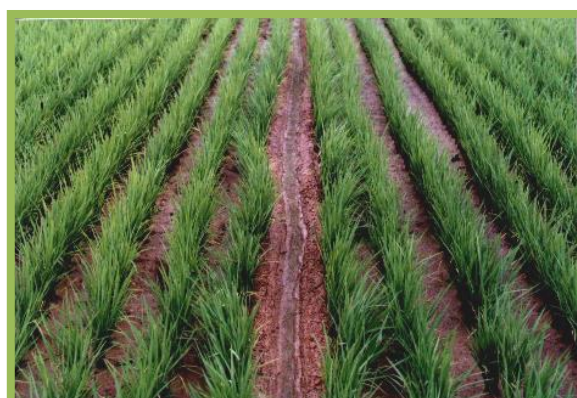
【溝切りの効果】 溝切りの実施により、迅速な通排水が可能となり、中干しの効果を高めます。

- ・溝切りの目安は額縁と10条に1本の割合で作溝し、排水口（水尻口）にしっかりと連結する。
- ・田面をある程度固く（落水1～2日後）してから溝を切り、6月中旬に同じところを再度切り直し、連結を確認する。



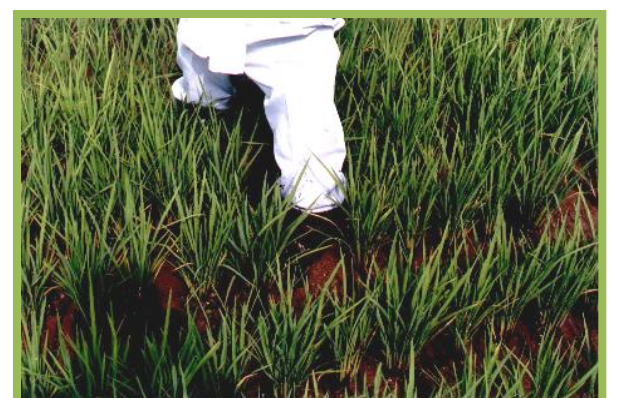
【中干し開始の目安】

茎数が14本の株。上写真を参考に、ほ場ごとに中干し開始時期を決めてください。



【中干しの遅れ】

中干しの時期が遅れると過繁茂状態になります。せっかく切った溝も効果減。



【中干し実施なし】

長靴が沈んでしまいます。稲も地面が見えないほどの過繁茂状態です。



### (3) 中間追肥の施用

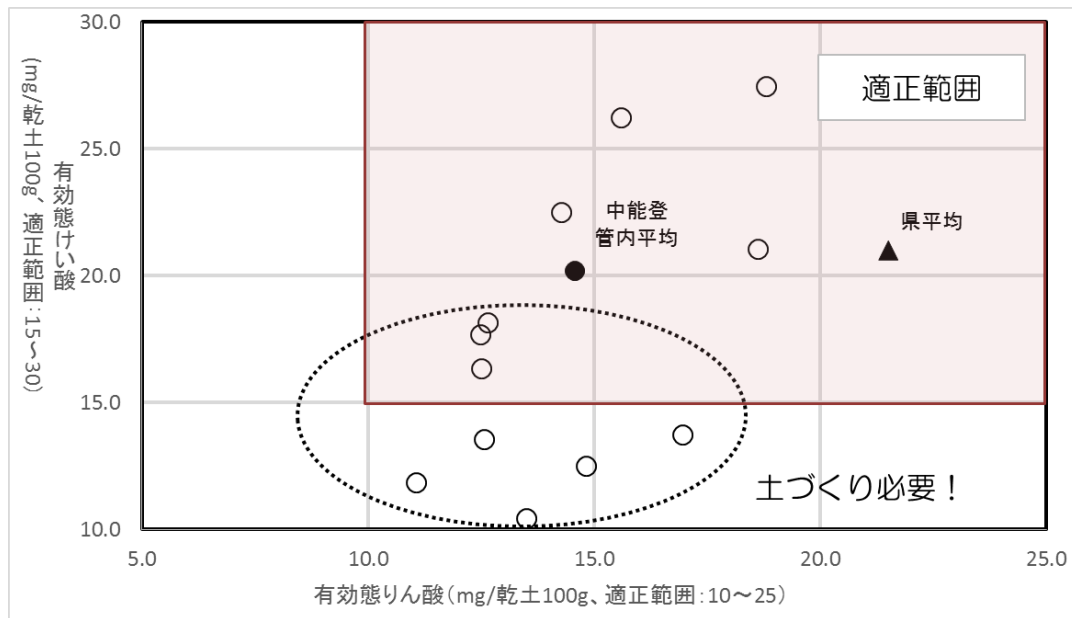
中能登管内の土壤は不良土壤が多く、特にイネが必要とするリン酸やケイ酸といった成分が県内の他地域よりも少なく、土づくりや不足する養分を補わないと品質や収量の低下に繋がります。

特に、近年は高温や日照不足といった登熟期間の天候の変動が大きく、品質の低下要因となっています。気象変動に強いイネづくりのポイントは、根をしっかりと作り、活力を高め、維持することです。そのためには、「中干し」により、働く根を作ることや土壤に必要な成分を補うことが重要です。

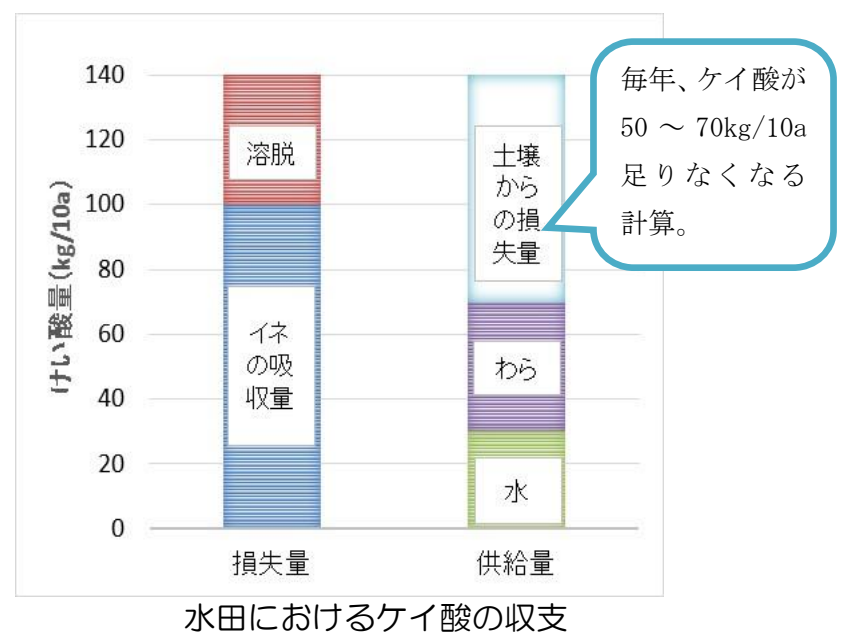
- ・「BB けい酸パワー・コシー発くん」(ケイ酸 12%配合) 以外の肥料(有機入り能登コシー発、スリム早生一発くん等)を使用した場合は、リン酸やカリ、ケイ酸が不足するので、必ず施用しましょう。

肥料名	施用時期	施用量	効果
PKけいさん (O-13-11 ケイ酸 17)	6月中旬	40kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基肥一発肥料のリン・カリの供給補正効果(緩効性)</li> <li>▶ 稲体が強固になり、病害虫抵抗性や耐倒伏性が向上する。</li> <li>▶ 根張りや受光体勢が良くなり、登熟が向上する。</li> </ul>

※ 茎葉のケイ酸含有率が高いほど増収し、ケイ酸の施用効果は、ほ場の有効態けい酸が少ないほど高くなります。



中能登地区土壤における有効態けい酸と有効態りん酸の関係



水田におけるケイ酸の収支

## 【今回のポイント その②】

### 《水田周辺の除草を徹底し、斑点米カメムシ被害を未然に防ぎましょう!!》

斑点米カメムシ類による品質低下が、能登産米の大きな課題となっています。斑点米による落等を未然に防ぐため、農道や雑草地の除草を徹底し、斑点米カメムシの生息場所をなくしておくことが重要です。

**ポイント1** 斑点米カメムシの生息数を減らすため、**6月中にはほ場周辺の草刈りを徹底**する。

**ポイント2** **7月上旬に仕上げの除草を実施**する。(一斉除草週間：7月4日(水)～7月10日(火))

**ポイント3** 7月11日以降は除草しない。(7月中旬以降の除草は、逆にカメムシをほ場に追いやることになる。やむを得ず防除する際は、薬剤防除直前に実施。)

### 3 除草剤の使用

対象雑草名	除草剤名	成分	散布量	留意点
ノビエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ等	アトトリ1キロ粒剤	1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後20日(稲5葉期)～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
ノビエ	ヒエクリーン1キロ粒剤	1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水) 移植後15日～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ等	バサグラン粒剤	1成分	3～4kg/10a	落水して散布 移植後15～55日(収穫60日前まで)
水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ等	マメットSM1キロ粒剤	3成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日(稲5葉期)～ノビエ3.5葉期(移植後30日まで)

【重要】マメットSM1キロ粒剤は薬害回避のため、気温が上昇してくる朝や高温時には散布しない。また、6月に入ってからの散布はしない。

### 4 その他注意事項

- ① 補植苗の本田放置は、いもち病の発生源となるので、補植終了後はほ場から取り除き、処分して下さい。
- ② 病害虫や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。能登米栽培暦にない農薬の使用にあたっては、最寄りのJAもしくは中能登農林総合事務所にご相談下さい。

#### 【農薬の適正な使用について】

ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律(農薬取締法)で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用して下さい。農業用廃プラスチック(使用済みビニール、農薬空容器、肥料空袋等)の野焼きや不法投棄も法律で罰せられますので正しく処分しましょう。